

令和8年度第1 回 佐久市観光振興ビジョン策定委員会 議事録

日時 2026 年7 月31 日(金) 10:00~12:00

場所 佐久市役所 議会棟 第1 委員会室

出席者 佐久市観光協会 伊藤様／佐久大学 廣橋様／佐久青年会議所 高柳様／

臼田町商工会 菜花様／望月商工会 高村様／ホテル旅館組合 長岡様／

のぞみグループ 甘利様(WEB)／佐久市経済部長 木内様／

千曲バス株式会社 岸様／東日本旅客鉄道 金井様／ビーブレックス 小林様／

事務局:木内課長、志摩課長補佐、保泉

バンブック:野口、鈴木

10:00

1. 開会

10:00~10:15

2. 委員自己紹介・事務局自己紹介

10:15~10:15

3. 委員長及び副委員長の選出

委員長:佐久市観光協会会長 伊藤委員(事務局案として提案・承認)

副委員長:佐久大学 廣橋氏(事務局案として提案・承認)

- 以降の議事進行は議長が担当

10:20~10:15

4. 会議事項

(1)スケジュールについて

(2)骨子案について

事務局より案をご説明:

0 ビジョン策定のフロー

1 ビジョン策定の目的と位置づけ

2 観光動向調査

3 比較分析

4 KPI 分析

5 ビジョン策定・推進体制

6 これからの観光振興の基本的方針

<骨子案等についての意見交換>

委員:第二次に策定された計画がどの程度まで検証されているか

事務局:KPI の数値的達成状況については報告の通り。個々詳細については計画策定の中で全体の振り返り、調査を踏まえて皆さまに展開していく。

委員:奇譚のない意見交換の中でビジョンを作っていくという認識で良いか

事務局:認識の通りです。

委員:第二次ビジョンの中で最終的なKPI はどのように定められているのか

事務局:観光利用者数の伸長に比例して観光消費額が伸びていくという前提のもとで定めている。

今後の数値目標については、前例の積み上げになりやすいが、その点も含め議論の中で検討していきたい。また、観光客の流入の実態的な部分というものはまだ把握しきっていない部分があり、宿泊事業者様へのアンケートや聴き取りなどを通して、まずは実態を把握するということが必要になってくると考えている。

委員:軽井沢との観光入込の相関について触れられていたが、その実態について教えてもらいたい

事務局:具体的な部分には調査中となるが、渋滞対策などを含め軽井沢観光協会とも協議中、佐久管内とも広域連携を進めていきたいと考えている。

委員:観光協会としての策定に向けた意見を聴取する機会があるか、どの様に関わっていくのか

事務局:進行する段階から観光に携わる業の方と共有して進めていきたいと考えている。また、策定状況の進捗などは理事会や役員会などでの報告も考えている。進行する段階において関わっていく企業の皆さまの理解がある状態でスタートを切りたいと考えている。

委員:佐久市にあるコンテンツはすごく良いと感じている。「主役は軽井沢、サブカルは佐久」といった運動を行いたいと考えている。

委員:海外の研修生や留学生、在学学生の話聞くことが多いが、遠出ができないといった意見がある。バスが無くなってしまったことは痛手。生活者にはデマンドタクシーがあるが16 時くらいでサービスが終わってしまうこともあり利用ハードルがある。

八ヶ岳山麓の入口としてある佐久市にとって、この点の強化は有用と考えている。県の観光ビジョンと連動し、宿泊をセットにした地域の導入口につなげる施策をぜひ行ってもらいたいと考えている。

事務局:昨年8 月に環八ヶ岳連携推進協議会が組織。佐久市を起点に広域への周遊観光に繋げたいということは考えている。その中でも交通の足ができないかということも検討材料となる。連携している市町村においてさまざまな交通の形態があるのでまずは整理しながら議論を始めていきたい。

委員:海外登山客のリクエストも多く、新幹線が停まる場所という肝要な拠点となるので、ぜひ検討を進めてもらいたい。

委員:佐久平駅が良いポータルになると良い。観光情報発信の強化が必要。

委員:P7 に10 箇所ほど観光地点として設定されているが、その拠点を伸ばしていくのか、新しく増やしていきたいのか考えを聞きたい。

事務局:これだけを伸ばすということではなく、あくまで動向調査の抽出エリアとして基準となる場所として、そこを基準に統計を図っている地点となる。

委員：信州デスティネーションキャンペーンが来年2027 年7～9 月の本番に向けて今夏プレキャンペーンを実施中。観光列車の団体列車や今後もさまざまな計画を考えている。新たな佐久地域の魅力を引き出していきたいと考えている。インバウンド需要については読みづらい状況にあるが、海外来訪者の視点でも見ていきたいと考えている。

委員：「地域の人」は「地域」を見ていなければ発信することができないと考えており、まちの魅力を自信持って言えるまちにしていきたい。観光協会のInstagram の情報発信が変わったことに驚いている。ショート動画などとてもステキな発信になっているが、反面で実際の来訪でギャップを与えないようにすることも重要だと考えている。市内エリアがそれぞれ地域らしさを高め合う姿勢が大事だと考えている。

委員：目立った施設がないエリアがどうPR していくか。渋沢栄一やマンホールなども同様だが、テーマを設けて、そこに合わせて注目度を高めていくような情報発信の仕方もある。魅力の見つけ方は切り方次第。今後はテーマを大事にしながら街の情報を発信していく必要があると思う。

委員：佐久は小さなテーマがいっぱいある。主要な観光地には行きたくないというローカルを目指す海外客も増えている。まちとしての観光の発展、山城や面白い神社、山岳ガイドの仕組みなど面白い小さな取組もある。エリア内の地域が地域を褒め合うようなそういった連携があっても良い。

委員：地域によって、顧客属性が大きく異なる。全県的に鳥獣被害が問題になっている中、野生の鹿を見るツアーが人気が出るなど、人によっては興味を示すケースもあり、多角的な視点も必要だと思う。

委員：人手不足もあり、観光バスを取りやめてしまった。スクールバスが主要事業となるため、夏休みは人手が逆に余ってしまう。期間限定で観光バスを催行することも良いかと思うが、ニーズが分からないので、手をこまねいているといった状況。

委員：過去、樋橋地区にインフォメーションセンターがあり、市内の情報がひと目でわかる場所が存在した。各地区への導線となる見やすい観光案内が必要だと感じる。

委員：佐久はインフラの面が弱いと感じる。デマンドタクシーなどもあるが、どちらかといえば住民向けのサービスであり、登録が必要になるなど観光客においてはハードルが高く、整備が検討材料となる。

委員：グランピングをやっていて海外や県外客から聞く声からは、歩いて回れるようなコンパクトな観光地が市内には少ないと感じる。日帰りでお金を落としていただけるような場所がほとんどない。軽井沢の別荘に來訪される方などにイオンモールが人気という声があるが、周辺に立ち寄らずに帰ってしまっている傾向があると聞いている。既存のものだけでなく、テーマを新しく創り出していく必要もあると思う。小布施のような歩けるまちづくりなども参考に新たな拠点づくりを行うのも良いと思う。現状ではヘルシーテラスを案内するに留まっているが、一般の観光客が野菜を買っていく訳ではないため土産の案内をするくらいとなっている。

個別では酒造組合と連携した酒蔵巡りなどのツアー開発なども考えている。

委員：臼田エリアは小海線があるため、環境があるが、臼田駅からの移動が課題となっている。特に望月エリアは自家用車移動しか手段がなく、もったいないと感じている。自社の事業で信州サーモンや

ニジマスの養殖をしているが、グルメツアーの一環で見学したいというニーズがあった。そういった多角的な観点を取り入れても良いと感じる。

委員：佐久の病院を回って歌を歌わしてほしいというニーズもあった。学習や観光を結びつけるという考え方も良いのでうまくとりいれていけるアイデアに大学として協力できる部分もあるかもしれない。

委員：今あるものの発信の仕方や見せ方を新しくしていくことが重要。今までの情報発信の仕方には「思い入れ」の観点による部分もあったが、ニーズに合わせた新しい情報発信の仕方は考えていく必要がある。

委員：ホームページに里山を自転車で巡るツアーがあり、我々の日常は外の方から見る非日常であり、そういった視点も重要。外からのニーズを見つけていきたい。移住観光という考え方もあり、移住した方は事前に観光を行っている。

総括(委員)：点が線になっていくプロセスが良いと考えている。今回を第1回ですが、きっかけに議論を活発にみなさんで前に進めていければ良いと思います。

5. 事務局からの総括

骨子案を今回の会議を咀嚼しながらバージョンアップしたいと考えている

できれば来月あたりに2回目の会議を開催したい。日程を調整後に改めて周知を行う。＿